



令和 5 年 9 月 13 日  
内閣府政策統括官（防災担当）

## 令和 5 年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定について

標記について、別添のとおり受賞者が決定しましたのでお知らせします。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和 57 年 5 月 11 日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

### 【本件問合せ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付 西川、中川、高野

電話：03-3593-2844（直）FAX：03-3503-5690

## 令和5年 防災功労者 内閣総理大臣表彰 受賞者名簿

### ○ 個人

#### 〔防災体制の整備〕

国立研究開発法人防災科学技術研究所 火山研究推進センター長 清水 洋	(茨城県)
鳥取大学 名誉教授 藤村 尚	(鳥取県)
東京大学地震研究所 教授 市村 強	(埼玉県)
信州大学医学部附属病院高度救命救急センター長(医学部医学科救急集中治療医学教授) 今村 浩	(長野県)
広島大学学術院(大学院医系科学研究科) 教授 久保 達彦	(福岡県)
静岡大学 教授 小山 真人	(静岡県)
千葉学園高等学校 教員 齋藤 大輔	(青森県)
東京大学先端科学技術研究センター 教授 廣井 悠	(東京都)
東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター 教授 目黒 公郎	(神奈川県)
広島大学 名誉教授 海堀 正博	(広島県)

#### 〔防災思想の普及〕

元 雫石町職員 小原 千里	(岩手県)
------------------	-------

### ○ 団体

#### 〔防災体制の整備〕

中越市民防災安全士会	(新潟県)
米野木区自主防災会	(愛知県)
立町マイスクール児童館	(宮城県)
仏生寺地域づくり協議会	(富山県)
自治会自主防災会・臨海企業連絡会	(和歌山県)

#### 〔防災思想の普及〕

青森地域防災協会	(青森県)
西成瀬地区自主防災連合会	(秋田県)
先斗町まちづくり協議会	(京都府)
尺土自主防災組織協議会	(奈良県)

一般社団法人高梁青年会議所	(岡山県)
加茂地区自主防災連合会	(徳島県)
佐古自主防災会連合会	(徳島県)
NPO法人ふるさと未来創造堂	(新潟県)
小矢部市障害者団体連絡協議会	(富山県)
豊橋市立津田小学校	(愛知県)
福崎町消防団	(兵庫県)

**〔災害現場での顕著な防災活動〕**

(令和2年7月豪雨)

あらお防災人の会	(熊本県)
----------	-------

(令和4年7月14日からの大雨)

大崎市消防団	(宮城県)
美里町消防団	(宮城県)
涌谷町消防団	(宮城県)

(令和4年8月3日からの大雨)

外ヶ浜町消防団	(青森県)
深浦町消防団	(青森県)
飯豊町消防団	(山形県)
川西町消防団	(山形県)
長井市消防団	(山形県)
小松市消防団	(石川県)
鶴田町消防団	(青森県)
弘前市消防団	(青森県)
大館市消防団	(秋田県)
村上市消防団	(新潟県)
村上市小岩内区	(新潟県)
国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊	(茨城県)

(令和4年8月3日からの大雨・令和4年台風第14号)

国土交通省緊急災害対策派遣隊	(東京都)
----------------	-------

(令和4年台風第14号)

由布市消防団	(大分県)
都城市消防団	(宮崎県)

(令和4年台風第15号)

磐田市消防団	(静岡県)
島田市消防団	(静岡県)

以上 48件(11個人、37団体)

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	しみず ひろし 清水 洋
住 所	茨城県つくば市
職 業	国立研究開発法人防災科学技術研究所火山研究推進センター長
功 績 の 概 要	<p>氏は、文部科学省科学技術学術審議会の委員等を歴任して、わが国の地震予知計画と火山噴火予知計画（現在は、災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画）の計画立案に関わり、令和元年7月からは火山噴火予知連絡会の会長として、地震火山の観測研究の推進と観測体制の整備に多大な貢献をしている。</p> <p>また、九州大学地震火山観測研究センターのセンター長として、そして、令和5年度からは防災科学技術研究所の火山研究推進センター長として、地震及び火山の観測データと研究成果に基づき、長年にわたり、国や自治体等に助言を行い、地震火山防災体制の整備にも貢献をしている。</p> <p>特に、雲仙普賢岳噴火災害時には、同氏らの観測データが現地の緊急防災対応判断の拠り所となり、その後も、火山噴火予知連絡会をはじめ防災関係の委員会等の委員として、地震火山の活動評価とハザード想定に関わり、それらは国や自治体の防災対策に反映されている。</p> <p>さらに、雲仙火山の防災視察登山を実施し、防災対策の課題、危機意識を地域の自治体や防災機関等と共有する活動に加え、国の次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトや九州大学の実践的火山専門教育拠点事業、気象庁や自治体の防災担当者研修、防災推進員（自主防災リーダー）養成講座、住民と自治体の協働による島原防災塾などを通して、防災を担う人材の育成とともに雲仙火山の噴火災害と復興を次世代に伝承する活動にも取り組まれた。</p> <p>以上のとおり、地震火山の専門家として幅広く活躍し、防災行政における貢献度は多大である。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	ふじむら ひさし 藤村 尚
住 所	鳥取県鳥取市
職 業	鳥取大学名誉教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、地盤工学及び土木工学の専門家（現鳥取大学名誉教授）として、鳥取県防災顧問、鳥取県地震防災調査研究委員会委員、鳥取県減災目標等策定委員会委員、鳥取県土砂災害警戒情報検討委員会委員長及び鳥取県採石場安全対策審議会委員等を歴任し、鳥取県の防災行政に係る有益な提言や助言を行うなど、鳥取県全体の地域防災力の強化に長年尽力している。</p> <p>さらに、平成25年からは国土交通省が設立した木津川上流河川環境研究会の委員として、河川環境の保全、整備についても提言をされるなど、県境を越えた広域での防災体制の構築にも大きく貢献している。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	いちむら つよし 市村 強
住 所	埼玉県さいたま市
職 業	東京大学地震研究所教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、地震災害の軽減へ向け、「京」や「富岳」のようなスーパーコンピュータの性能を引き出す地震シミュレーションに関する計算科学研究を進めてきた。東京全体の高解像度の地震動評価や列島の地殻変動評価を実現し、そのシミュレーション技術はインフラ企業にも利用されている。</p> <p>スーパーコンピュータの研究開発の経験を活かし、氏は、内閣府において防災研究施策立案にも有識者として参画している。情報系先端研究に関わる施策立案を進め、社会の防災力向上に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	いまむら ひろし 今村 浩
住 所	長野県松本市
職 業	信州大学医学部附属病院高度救命救急センター長（医学部医学科救急集中治療医学教授）
功 績 の 概 要	<p>氏が、令和3年に厚生労働大臣賞を受賞した、「救急搬送時の遠隔作業支援システム」は、従来音声通信のみで行っていたオンラインメディカルコントロール（救急救命士等が医行為を実施する場合に現場の情報を元に医師が指示又は指導・助言してそれらの医療行為の質を担保すること）を、スマートグラスを用いることにより音声に加え画像情報による双方向通信を行うものである。これにより搬送中の患者やモニタの映像を現場の救急隊から医療機関にリアルタイムに送信することでより具体的で正確な情報が伝わり、救急救命士が行う特定行為に対して、医師からの確かな指示、助言を与えることができるようになる。さらに、この画像伝送システムをメディカルコントロール体制および既存の救急医療情報システムと連携させることによって、地域内の全ての救急事案に対し、またどの医療機関に搬送する症例に対しても使用が可能となり、さらに災害発生時においては地域内の全関係機関でリアルタイムに医療に関する情報を共有することができる。</p> <p>平時においては救急現場の情報を搬送先病院や地域のメディカルコントロールに活かすことによって、救急患者の病院での早期治療開始による救命率向上が期待できる。災害時においては現場の情報をリアルタイムに共有することで無用の混乱を回避して全体最適化を図ることができる。また、本システムは新型コロナウイルス等の感染症蔓延時で注目されている遠隔診断、遠隔医療にも応用可能な技術として期待される。現在は地域消防局との連携により実証実験を進めており、今後は、多くの都道府県で採用されている救急医療情報システムへの実装を目指している。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	くぼ たつひこ 久保 達彦
住 所	福岡県北九州市
職 業	広島大学学術院（大学院医系科学研究科）教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、フィリピンの災害時サーベイランス様式SPEEDをベースに、我が国の災害医療チームの標準診療日報様式として日本版SPEED（J-SPEED）を開発した。更にJ-SPEEDをベースにWHO Emergency Medical Team Minimum Data Set（MDS）を開発し、フィリピン生まれ日本育ちのWHO国際標準として樹立した。</p> <p>氏は、防災情報の管理という課題に国内/国際標準様式の樹立という公衆衛生学的アプローチから取り組み、いざ災害発生時には国内被災都道府県のみならずモザンビーク、モルドバ、トルコ等海外にもDMATや国際緊急援助隊等として派遣されて被災自治体や被災国保健省、WHO等と活動をともにして被災傷病者データに基づく災害医療調整を実現し、さらには我が国の災害医療の先進技術の国際発信に貢献してきている。</p>



功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	こやま まさと 小山 眞人
住 所	静岡県静岡市
職 業	静岡大学教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、昭和55年頃より静岡県とその周辺地域の大地の成り立ちと地震・火山噴火の歴史や発生機構を研究し、その成果をもとに平成12～14年度の富士山ハザードマップ検討委員会、平成22年度以降の伊豆東部火山群の防災関係会議、平成24年度～現在の富士山火山防災対策協議会、平成13年度以降の火山噴火予知連絡会の各種委員会などに加わり、防災対策の導入に大きく貢献するとともに自ら地域住民への普及啓発活動に取り組んだ。また、伊豆半島全体をジオパークとして防災・観光を融合する提案を行った上で、平成23年から伊豆半島ジオパーク推進協議会（現・美しい伊豆創造センター）の顧問・理事を務め、平成24年の日本ジオパーク認定と平成30年のユネスコ世界ジオパーク認定に決定的な貢献を果たした。</p> <p>静岡県周辺地域の大地の成り立ちと地震・火山災害に関する普及啓発活動としては、地元新聞（静岡新聞）へのコラム寄稿（平成14年以降106編）、地元新聞（伊豆新聞）への解説記事連載（平成19年以降233編）、「富士山 大自然への道案内」（岩波書店、平成25年）など解説図書や案内地図の出版（平成15年以降27編）、地域住民を対象とした講演（平成元年以降292回）のほか、NHKブラタモリの県内題材時の案内人を6度務めるなど、TVやラジオの放送メディアに多数出演・解説している（平成元年以降321回）。</p>

## 功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	さいとう だいすけ 齋藤 大輔
住 所	青森県八戸市
職 業	千葉学園高等学校教員
功 績 の 概 要	<p>氏は、消防クラブ（高校生消防クラブ員が防災及び防火について学習するための組織であり、防犯パトロールや防火に関する研究発表や意見発表などの実施などの活動を行っている。）指導者として10年携わり、生徒達への指導を通じ防火防災意識の向上に寄与し、生徒の消防クラブ員の育成に貢献するなど地域防災力の向上に努めた。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	ひろい ゆう 廣井 悠
住 所	東京都文京区
職 業	東京大学先端科学技術研究センター教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、わが国における帰宅困難者対策の第一人者として、社会調査やシミュレーション技術を科学的根拠とした帰宅困難者問題への対応・対策方針を確立した。この方針は社会に対してインパクトを与えるとともに、行政の施策にも大きく取り入れられ、その普及・啓発においても多大な貢献を果たしている。これらは多数の受賞や検討会における座長・委員実績が示すとおり高い評価を得ている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	めぐろ きみろう 目黒 公郎
住 所	神奈川県川崎市
職 業	東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、我が国の防災関係の多くの学協会の会長を歴任するなど、学术界のリーダーとして、防災研究をけん引するとともに多くの防災関連省庁や地方自治体の防災対策の推進に貢献した。</p> <p>また、少子高齢人口減少社会や財政的な制約が厳しい中で、今後の我が国の防災対策のあり方に関する方向性を示すとともに、防災ビジネスの重要性の指摘と推進、フェーズフリー防災の提唱とその普及に努めた。さらに途上国での防災教育と対策の推進を支援する活動を長年実施するとともに、我が国へ32年ぶりに世界地震工学会を誘致し、同会議を成功裏に開催するなど、防災におけるわが国の国際貢献に大きく寄与した。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 氏 名	かいぼり まさひろ 海堀 正博
住 所	広島県東広島市
職 業	国立大学法人広島大学名誉教授
功 績 の 概 要	<p>氏は広島大学において、永年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績をあげたほか、地域住民の防災活動にかかる草の根支援や指導など地域に根ざした土砂災害対策に尽力し、地域防災における大きな成果をあげた。</p> <p>特に、フィールド調査を中心に多くのデータを蓄積し、崩壊や土石流等の集中発生誘因となる豪雨について、雨量だけでなく降雨パターンの重要性を指摘するなど多くの論文を学術誌に投稿しました。これらの研究成果は高く評価され、他の関連する研究や行政等による防災実務において広く反映、活用されることで、実学としての砂防学の発展に大きく寄与している。</p> <p>また、国土交通省や広島県を中心に数多くの委員会等に参加し、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面からの的確な助言、指導を行うなど砂防行政においてより効果的な施策を立案、展開するため多大なる貢献があった。</p> <p>さらに大学において質の高い教育を実践し、これにより多くの優秀な砂防技術者を輩出することに貢献した。その他、各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、メディアにも積極的に出演し土砂災害にかかる講義、説明を行うなど講演や広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努めている。</p> <p>加えて平成30年から令和2年までは、公益社団法人砂防学会会長として全国各地で発生した土砂災害に対する現地調査等を主導し、特に、平成30年7月豪雨災害においては、5つのチームからなる調査団を編成し緊急調査を行うとともに、これら調査に基づく緊急提言をとりまとめ、国土交通省に対して技術的な提言を行った。</p>

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	おばら ちさと 小原 千里
住 所	岩手県岩手郡雫石町
職 業	元 雫石町職員
功 績 の 概 要	<p>氏は、岩手山の火山活動が活発化していた1999年以降、継続して秋田駒ヶ岳及び岩手山の地熱域や植生について調査を行っている。</p> <p>また、岩手県内の火山活動状況について把握するための「岩手県の火山活動に関する検討会」にオブザーバーとして参画するとともに、登山者の視点に立った調査結果を提供し、有識者等による火山活動状況の適切な評価実施に多大な貢献をした。</p> <p>氏は、これらの活動を通じて、本来は専門外である火山防災について、有識者等の指導を受けながら、率先して地元住民自らが火山を見守る火山防災のあり方を実践してきたものであり、現在では岩手県における現地の火山情報連絡員の第一人者ともいえるべき立場を確立し、永年にわたり活火山立地県である岩手県の地域防災力の向上に多大な貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	ちゅうえつしめんぼうさいあんぜんしかい 中越市民防災安全士会
所 在 地	新潟県長岡市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>きし かずよし</small> 岸 和義
功 績 の 概 要	<p>中越市民防災安全士会は、市民に対して防災に関する多様な相談に応じている「防災よろず相談」の窓口を常設し、アドバイスを行っているほか、地域の防災訓練や防災講話に講師を派遣し、日常的に市民の防災力の向上に寄与している。</p> <p>また、自主防災会長等を対象にした研修を開催し、自主防災会に期待される役割について具体的な活動事例を用いて説明するなど、自主防災活動の活性化にも貢献している。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	こめのきくじしゅぼうさいかい 米野木区自主防災会
所 在 地	愛知県日進市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>すずき ゆたか</small> 鈴木 豊
功 績 の 概 要	<p>米野木区自主防災会は、米野木区自主防災会防災計画において、各役員の担当任務を定め、被害状況等を正確かつ迅速に把握し適切な応急処置を行えるようにしており、災害が発生し区の災害対策本部が立ち上げられると、組長は区内の被害状況等を「被害状況調査票」により地区長に報告し、地区長は組長からの被害状況の情報を収集するとともに、「地区被害集計表」により本部に報告する。</p> <p>このことは、毎年行われる防災訓練の中でも情報伝達訓練として実施しており、実際の災害時にも有効であると考えられる。</p>



## 功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	たちまちまいすくーるじどうかん 立町マイスクール児童館
所 在 地	宮城県仙台市青葉区
代 表 者 (団体での職名)	館長 <small>こいずみ</small> 小泉 <small>せつこ</small> 節子
功 績 の 概 要	<p>立町マイスクール児童館は、地域の防災士や町内会等の協力を得ながら、子供の年代に応じた多様な防災の取組みを行っており、これらの取組みを長年にわたり継続することによって、地域において、防災意識の定着や情報共有体制の確立といった成果につながっている。</p> <p>児童館の持つ機能を活かした数々の取組み、及びその継続的な活動によって、地域の防災意識の向上に多大な貢献をしている。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ぶっしょうじ ちいきづくりきょうぎかい 仏生寺地域づくり協議会
所 在 地	富山県氷見市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>たかぎ りょうじ</small> 高木 良治
功 績 の 概 要	<p>仏生寺地域づくり協議会は、緊急連絡先や持病、常備薬などを記入した用紙を筒に入れて冷蔵庫に保管する「いのちのバトン」に取り組み95%の家庭で実施されていることや、地区防災計画を活用した防災訓練を毎年実施している。</p> <p>福祉と防災が連携する「支え合い、住み続けられる地域社会の実現」を実行している。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	じちかいじしゅぼうさいかい りんかいきぎょうれんらくかい 自治会自主防災会・臨海企業連絡会
所 在 地	和歌山県海南市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>よしかわ ひろあき</small> 吉川 裕彰
功 績 の 概 要	<p>自治会自主防災会・臨海企業連絡会は、東日本大震災を教訓に、南海トラフ地震に備え、地域の自主防災組織と企業が防災力強化を目的として設立され、地域住民と企業が一体となり、備蓄物資の整備や点検、訓練活動などを継続的に取り組み、地域の防災体制の整備と防災力の強化に尽力してきた。</p> <p>また、平成30年度からは、夜間訓練を毎年実施し、夜間時の津波避難場所での活動の確認や課題の検証等を行うとともに、令和2年度には、要配慮者対策や感染症を考慮した訓練を実施した。</p> <p>さらに、令和3年度には、地域の防災活動が継続できるよう、10年先を見据えた「地区防災計画」を策定し、地域住民と企業が連携して防災対策の推進に取り組んでおり、誰もが安心して暮らせるまちづくりに多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	あおもりちいきぼうさいきょうかい 青森地域防災協会
所 在 地	青森県青森市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>たけなか よしみち</small> 竹中 義道
功 績 の 概 要	<p>青森地域防災協会は、消防防災に関する知識の向上を図り、防火・防災思想を普及推進することを目的として各種事業を展開し、地域社会における防火・防災思想の普及、自主防災体制の確立、社会公共福祉の増進へ寄与し、多大の貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	にしなるせちくじしゅぼうさいれんごうかい 西成瀬地区自主防災連合会
所 在 地	秋田県横手市
代 表 者 (団体での職名)	会長 きし 季子 かずはる 和春
功 績 の 概 要	<p>西成瀬地区自主防災連合会は、西成瀬地区が、明治22年に9集落が合併して西成瀬村として発足した結束力のある地域であり、もともとは9集落毎に自主防災組織を結成していたが、災害発生の可能性が高い地域であることから、平成28年4月に9集落が連携して自主防災活動を行うため設立された。災害の危険性を共有し、災害対応や避難経路等についての防災研修を開催しており、地域住民の防災意識の高揚が図られている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	ぼんとちょうまちづくりきょうぎかい 先斗町まちづくり協議会
所 在 地	京都府京都市中京区
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>あらかき</small> 荒木 <small>ほんけい</small> 本恵
功 績 の 概 要	<p>先斗町まちづくり協議会は、平成28年7月の火災を受けて、先斗町地域における防火・防災対策をより強固なものとするよう、各地域団体と消防、警察及び行政が連携を図り、防火啓発活動や消防訓練を実施し、7年目を迎えた現在も活発な活動を継続している。</p> <p>この際、従前から景観や町並みの保全といった、まちづくりに係る取組を推進してきた実績のある同協議会が中心となって、地域の各種団体はもとより、消防、警察及び行政を強力にけん引し、従前の枠組みに捕らわれない官民が連携した防火・防災活動を展開することに成功した。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	しゃくどじしゅぼうさいそしききょうぎかい 尺土自主防災組織協議会
所 在 地	奈良県葛城市
代 表 者 (団体での職名)	本部長 <small>ますだ</small> 増田 <small>ふみやす</small> 文康
功 績 の 概 要	<p>尺土自主防災組織協議会は、自分の身は自分で守るという意識と共に、普段から近隣住民で協力し合いながら「自助」「共助」による災害に強い区を目指し、日頃から継続した自主的な防災活動を行いながら「地区防災計画」の作成に取り組むなど積極的な活動を行っている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	いっばんしゃだんほうじん たかはしせいねんかいぎしょ 一般社団法人 高梁青年会議所
所 在 地	岡山県高梁市
代 表 者 (団体での職名)	理事長 <small>きっかわ まさひろ</small> 吉川 正洋
功 績 の 概 要	<p>一般社団法人高梁青年会議所は、平成30年7月豪雨災害後、地域の復旧・復興・発展のために何ができるかを高梁青年会議所会員同士で話し合い、市民の防災意識の向上のための活動を実施することとした。令和元年11月29日に高梁市が開催したマイ・タイムライン講習会に参加し、マイ・タイムラインの考え方や作成方法について学んだ後、市内の地域団体や小中学校において、マイ・タイムライン講習会の講師として、市民のマイ・タイムラインの作成支援を無償で継続的に実施しており、市民の防災意識向上及び地域の防災力向上に貢献している。</p> <p>また、本団体の会員は、高梁市地域防災力向上委員会の委員として、委員会が発足した令和元年11月25日から現在に至るまで精力的に活動を続けており、市民及び行政の協働による地域防災力の向上に係る取り組みに対し、的確な指導、助言を行っている。</p>



功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	かもちくじしゅぼうさいれんごうかい 加茂地区自主防災連合会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>こてがわ</small> 小手川 <small>しょうぞう</small> 詔三
功 績 の 概 要	<p>加茂地区自主防災連合会は、平成19年6月26日、加茂地区の47自主防災組織が連携し連合会として結成され、以降、定期的に地域住民参加型の防災訓練、災害図上訓練、救命講習及び防災研修等を毎年継続して実施している。</p> <p>また、当連合会では、南海トラフ地震の発生に備え、平成30年11月にコミュニティ協議会及び徳島大学と合同で「地震・津波避難支援マップ」を作成し、地区内の全世帯及び全事業所に配布した。また、避難支援看板の作成・設置等についても実施している。</p> <p>さらに、地域と学校との連携強化を図るため、地区内の高等学校等と合同で避難訓練を実施するなど、常に地域防災力の向上に尽力し、防災体制の整備に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	さこじしゅぼうさいかいいんごうかい 佐古自主防災会連合会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>とみだ</small> 富田 <small>しゅうじ</small> 修二
功 績 の 概 要	<p>佐古自主防災会連合会は、阪神・淡路大震災の教訓をもとに「自助、共助」の重要性を認識し、平成11年4月1日に設立された。</p> <p>その後、地域住民参加型の防災訓練、災害図上訓練、救命講習及び防災研修の実施、火災予防週間中には地元消防分団、小学生、地域住民等と防火パレードを実施、さらに佐古地区は山地に面した地形を有していることから、平成27年6月には前年発生した広島市土砂災害を踏まえ、土砂災害を想定した避難訓練を実施するなど、平常時から各種災害に強いまちづくりに尽力している。</p> <p>また、南海トラフ地震に備え、平成27年10月「地震・津波避難支援マップ」を作成し、全世帯、全事業所に配付、平成29年度には「避難所運営マニュアル」を作成、運営委員会を設立するなど、防災体制の整備に貢献している。平成29年の3月に地域コミュニティセンター、10月に地区内小学校の「避難所運営マニュアル」を作成し、避難所運営委員会を設立した。</p> <p>さらに、同年10月「地震・津波避難支援マップ」を作成し、全世帯、全事業所に配布するなど、防災体制の整備に多大な貢献をしている。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	えぬびーおーほうじんふるさとみらいそぞうどう NPO法人 ふるさと未来創造堂
所 在 地	新潟県長岡市
代 表 者 (団体での職名)	理事長 <small>さわだ まさひろ</small> 澤田 雅浩
功 績 の 概 要	<p>NPO法人ふるさと未来創造堂は、「御用聞き（防災士や地域とつながりのある方等）」による学校訪問やヒアリング等を通じて、小中学校の防災教育を支える体制を構築していることが評価されたもの。</p> <p>行政と連携した防災学習教材の設置や地域と学校を結びつける活動などにより、子どもをきっかけとした家庭での防災意識の向上を図り、地域の防災力強化に貢献している。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	おやべししょうがいしゃだんたいれんらくきょうぎかい 小矢部市障害者団体連絡協議会
所 在 地	富山県小矢部市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>しまだ ゆきえ</small> 嶋田 幸恵
功 績 の 概 要	<p>小矢部市障害者団体連絡協議会は、健常者が活動する想定ばかりであった防災訓練において、災害弱者である障害者の訓練参加する機会を作り出し、「自助」、「共助」の向上に努めるなど、防災思想の普及に多大な貢献をしている。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	とよはししりつつだしょうがっこう 豊橋市立 津田小学校
所 在 地	愛知県豊橋市
代 表 者 (団体での職名)	学校長 <small>たきがわ</small> 滝川 <small>まさお</small> 昌男
功 績 の 概 要	<p>豊橋市立津田小学校は、津田小アドバイバル（アドベンチャー＋サバイバル）の名で防災授業を展開してきた。地域やPTAとの連携で、小学生の興味をひくような学習を展開してきたことで、地域と児童の防災意識を上げる十分な実績がでた。</p> <p>その後、学校での授業の場で、より小学生にリアルな「命を守る」教育を実践へと変化させ、全校児童を対象とした津波避難訓練を実施し、「水平避難」や「垂直避難」の重要性を伝える学習を実施している。</p> <p>実際に高台の避難場所まで歩いて避難を実施することで、自分たちが住んでいる町の学習を進め、水災害が起きやすい地域であることの理解を、年々変化しながら進めている。</p> <p>特に、「水平避難」の学習では、地域の標高差を確認し、どこに逃げるのが最良か？を児童一人一人が考える構成となっている。最寄りの瓜郷遺跡が高台になっていることから、大地震の後にはみんなで避難することのルールを徹底するとともに防災マップを作成して、地域住民へ発表することで、一緒に考える授業をしている。</p> <p>また、垂直避難の学習では、学校の校舎を最上階まで上がるだけでなく、そこで数日間暮らす可能性を考慮し、上階に持ち込む物を手分けして運ぶ訓練を繰り返すなど、児童の防災意識は格段にあがり、ひとりひとりが自分で考えることができるようになる点で成果が出ていると言える。</p> <p>周辺地域は、南海トラフ地震臨時情報の事前避難対象地域に該当することから、地域住民と連携し、浸水被害が予想される地域の全住民が事前避難するために、災害時に拠点となる地域の小学校で、住民への周知などの防災訓練を進めている。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ふくさきちょうしょうぼうだん 福崎町消防団
所 在 地	兵庫県神崎郡福崎町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>あさい のぶと</small> 浅井 信人
功 績 の 概 要	<p>福崎町消防団は、子どもたちにとって身近な地域の大人が消防団員として活躍している姿を見ることを通じて、消防団をより一層身近に感じ、防火・防災に役立てて貰おうと、地元小学校と消防団が長年にわたり合同防災訓練等積極的に連携をしている。これに加え、近年は小学生やその保護者、こども園等の職員に心肺蘇生法やAEDの使い方を講習するなど、心肺蘇生法の普及にも力を入れ、住民の安全安心に寄与している。</p> <p>同消防団は、人口2万人弱の町ながら団員定数600名、充足率100%を30年以上も継続しており、平均年齢も約33歳と全国的にも比較的若い団員で構成されている。学校と連携することにより、今後の地域防災力としての若い団員確保に向けて子どもの時から消防団の重要性や地域貢献の意識を持ってもらい、大人になったときに一人でも多く消防団に入団してもらえるよう加入促進も進めている。何より子どもたちが直接消防団員の活動に触れることにより、地域への愛着が持てる地域づくりが形成されている。</p> <p>さらに、同消防団は様々な団体からの執筆依頼にも積極的に協力し、全国に向けて取組の内容を発信していることから、今年度は県外消防団から視察研修先として同消防団が選ばれる等、幅広い活動をされている。</p> <p>同消防団の取組は、地域防災の要である消防団自らが行っていく主体性があり、災害対応にのみ評価されがちな消防団において、積極的な防災・減災への模範となり、地域の小学校との連携という全国的にも共有可能な汎用性のある取組といえる。</p> <p>以上のとおり、同消防団は防災思想の普及における貢献度は多大である。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	あらおぼうさいにんのかい あらお防災人の会
所 在 地	熊本県荒尾市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>かつき きいちろう</small> 甲木 喜一郎
功 績 の 概 要	<p>あらお防災人の会は、平時から行政をはじめとした多様な団体と連携し、広く市民に対し防災啓発を進めるとともに、「令和2年7月豪雨」時において災害ボランティアセンターの物資部門を社会福祉協議会から依頼受け担当し、地域の防災力向上及び災害からの復旧復興に対し多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	おおさきししょうぼうだん 大崎市消防団
所 在 地	宮城県大崎市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>うつみ けいじ</small> 内海 啓二
功 績 の 概 要	<p>大崎市消防団は、令和4年7月14日からの大雨に際し、令和4年7月15日から7月17日にかけて、延べ1,078名が出動し、水防工法（積み土のう工及び月の輪工）の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。</p> <p>平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>



功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	みさとまちしょうぼうだん 美里町消防団
所 在 地	宮城県遠田郡美里町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>きむら つねお</small> 木村 常雄
功 績 の 概 要	<p>美里町消防団は、令和4年7月14日からの大雨に際し、令和4年7月16日から7月18日にかけて、延べ166名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。</p> <p>1人として人的被害を出さず、平時における住民への水防意識の普及もあり、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	わくやちょうしょうぼうだん 涌谷町消防団
所 在 地	宮城県遠田郡涌谷町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>たむら としゆき</small> 田村 敏幸
功 績 の 概 要	<p>涌谷町消防団は、令和4年7月14日からの大雨に際し、令和4年7月16日から7月17日にかけて、延べ200名が出動し、水防工法（積み土のう工及び月の輪工）の実施、河川等の警戒巡視、排水活動等の水防活動を行った。</p> <p>人的被害を出すことなく、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	そとがはままちしょうぼうだん 外ヶ浜町消防団
所 在 地	青森県東津軽郡外ヶ浜町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>いしおか ひろひで</small> 石岡 博英
功 績 の 概 要	<p>外ヶ浜町消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から8月28日にかけて、延べ300名以上が出勤し、孤立集落からの被災者を24名救出するなど人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ふかうらまちしょうぼうだん 深浦町消防団
所 在 地	青森県西津軽郡深浦町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>にしぎき</small> 西崎 <small>あきかず</small> 昭一
功 績 の 概 要	<p>深浦町消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から12日まで延べ356名が出勤し、危険地域住民の避難誘導、土砂・障害物の搬出などの応急復旧作業にあたるなど、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	いいでまちしょうぼうだん 飯豊町消防団
所 在 地	山形県西置賜郡飯豊町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>たなべ たかし</small> 田辺 隆
功 績 の 概 要	<p>飯豊町消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から8月27日にかけて、延べ412名が出動。降り続く豪雨の中、自分の家が被害を受けているにもかかわらず、身の危険も顧みず昼夜に渡り水防活動、住民の避難誘導、人命救助活動に当たり被害を最小限に食い止めるとともに、二次災害防止のための警戒活動を昼夜徹して行い町民の不安解消に努めた。平素の防火意識の高揚とあいまって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	かわにしまちしょうぼうだん 川西町消防団
所 在 地	山形県東置賜郡川西町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>さいとう ふたお</small> 齋藤 二男
功 績 の 概 要	<p>川西町消防団は、令和4年8月3日に発生した大雨による水害において、延べ636名の消防団員が5日間にわたり警戒巡視、土のう積み、避難指示や誘導、さらには救助活動や排水作業など地域住民の安全確保に全力で当り、一人の犠牲者も出すことなく地域住民の期待に応えた功績は素晴らしかった。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ながいししょうぼうだん 長井市消防団
所 在 地	山形県長井市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>しぶや</small> 渋谷 <small>ただとし</small> 忠敏
功 績 の 概 要	<p>長井市消防団は、令和4年8月3日、4日の2日間において、延べ794名が出動し、豪雨災害において地域住民の避難誘導及び積み土のう工法により一般住宅等への浸水防止に尽力した。さらに消防団が所有している小型動力ポンプを使用し、内水氾濫している水路の排水を行い住宅への浸水防止に尽力した。また、冠水した道路の警戒監視を行い通行する車両の交通誘導にもあたって他、動けなくなった車両の移動にも協力した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁・国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こまつししょうぼうだん 小松市消防団
所 在 地	石川県小松市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>こばやし ひこゆき</small> 小林 彦幸
功 績 の 概 要	<p>小松市消防団は、令和4年8月4日に南加賀地域を襲った豪雨の際、延べ835名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり、市内の巡視を行い、土のう積み工の水防工法により浸水による被害を未然に防いだ。</p> <p>その他、住民の避難誘導、人命救助活動等の水防活動を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>



功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	つるたまちしょうぼうだん 鶴田町消防団
所 在 地	青森県北津軽郡鶴田町
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>しもやま まさひこ</small> 下山 正彦
功 績 の 概 要	<p>鶴田町消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月9日から8月12日にかけて延べ373名が水防活動に出動した。鶴田町では、堤防整備中で一部堤防が低い箇所があり、当該箇所への積み土のう工を的確に実施したことで岩木川の氾濫を防いだ。</p> <p>また、河川等の警戒巡視、排水活動等の水防活動を実施したことにより、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	ひろさきししょうぼうだん 弘前市消防団
所 在 地	青森県弘前市
代 表 者 (団体での職名)	団長 くぼ じゅんいち 久保 順一
功 績 の 概 要	<p>弘前市消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から8月15日にかけて延べ422名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導等の水防活動を行ったことで、一人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	おおだてししょうぼうだん 大館市消防団
所 在 地	秋田県大館市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>たけだ ひろやす</small> 武田 博康
功 績 の 概 要	<p>大館市消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から延べ226名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導等の水防活動を行い、一人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p> <p>その他にも倒木の安全管理、橋梁の警戒、断水地区への給水などの活動を行った。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	むらかみしょうぼうだん 村上市消防団
所 在 地	新潟県村上市
代 表 者 (団体での職名)	団長 おおたけ けんいち 大竹 憲一
功 績 の 概 要	<p>村上市消防団は、令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から延べ約2,600名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、救助等の水防活動を行った。</p> <p>大規模な災害にもかかわらず人的被害は負傷者1名にとどめるなど、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p> <p>その他にも、土砂や流木の撤去等に取り組んだ。</p>

## 功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	むらかみしこいわうちく 村上市小岩内区
所 在 地	新潟県村上市
代 表 者 (団体での職名)	区長 <small>まつもと</small> 松本 <small>さいち</small> 佐一
功 績 の 概 要	<p>令和4年8月4日未明、新潟県村上市小岩内区内において、豪雨を主因とする土砂流出が発生し、流出した多量の土砂、流木は下流約500mまで押し寄せ、家屋6戸が全半壊、市道埋塞、田への土砂流出などの未曾有の大被害を受けた。</p> <p>村上市小岩内区区長、防災士2名及び消防団10名は、3日夜の避難指示発令を受け、地区内の公会堂に集合し対応を検討した。村上市の指定する避難所に通じる市道が土砂崩落により通行止めとなっていた状況から、地区住民に防災無線で地区外に出ず公会堂へ避難するよう呼びかけた。また、夜間で雨音が大きかったことから防災無線に気づいていない住民もいる可能性があったため、防災士、消防団は、戸別に訪問し、速やかな避難を呼びかけるとともに、体が不自由で避難に時間を要する高齢者等を援助しつつ、住民全員が公会堂や高台へ避難した。その後、地区内を流れている小岩内大沢川が水位上昇し、石がゴロゴロと流れる音が聞こえたため、下流にある公会堂は危険と判断し地区の高台へ再避難した。再避難の後に土砂、流木が人家や一時避難していた公会堂に到達したが、区長始め防災士、消防団の適切な判断や迅速な避難行動により、死者、行方不明者が一人も生じなかった。当該地区は、昭和42年の新潟県北部全域を襲った羽越水害を経験しており、当時の状況を踏まえ、今回の雨の降り方が尋常でないと判断し、早めに避難したことにより人的被害を防いだ。</p> <p>なお、当該地区では市の防災訓練時に、「声を掛け合って避難する訓練」「避難ルートの再確認」「全員避難済みかどうか確認」を併せて行い、日頃から危機管理意識を高めている。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくりつけんきゅうかいはつほうじんどぼくけんきゅうじょきんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊
所 在 地	茨城県つくば市
代 表 者 (団体での職名)	隊長 <small>まぶち</small> 間 潤 <small>としあき</small> 利 明
功 績 の 概 要	<p>国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊は、令和4年8月の大雨に対応するために、発災直後から情報収集や分析等を実施するとともに延べ3名の専門家を派遣し、一般国道の道路崩落・道路流出箇所に係る高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくどうつうしょうきんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国土交通省緊急災害対策派遣隊
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者 (団体での職名)	隊長 <small>たかまつ あきひろ</small> 高松 昭浩
功 績 の 概 要	<p>1) 令和4年8月の大雨 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和4年8月の大雨による災害に際し、8月3日から31日の約1ヶ月にわたり、全国から延べ1,487名が出動し、被災自治体におけるリエゾン活動や、東北、北陸地方における被災自治体の被災状況調査、排水ポンプ車による浸水排除や浸水解消後の道路上に残った泥土の路面清掃を実施するなど、被災地の復旧・復興に向けて多大なる貢献をした。</p> <p>2) 令和4年台風第14号 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和4年台風第14号による災害に際し、9月15日から30日までの15日間にわたり、全国から延べ1,040名が出動し、被災自治体におけるリエゾン活動や、ドローン等を活用して道路や河川等の損壊箇所を調査し、自治体に報告するとともに、専門家による被災状況の把握、応急復旧等の技術的助言を実施した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	ゆふししょうぼうだん 由布市消防団
所 在 地	大分県由布市
代 表 者 (団体での職名)	団長 かい あつし 甲斐 敦
功 績 の 概 要	<p>由布市消防団は、令和4年台風第14号に際し、令和4年9月17日から9月22日にかけて延べ378名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。</p> <p>1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p>



功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	みやこのじょうししょうぼうだん 都城市消防団
所 在 地	宮崎県都城市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>たなか</small> 田中 <small>ふじお</small> 富士夫
功 績 の 概 要	<p>都城市消防団は、令和4年台風第14号に際し、令和4年9月17日から9月19日にかけて、延べ1,549名が出動し、河川等の警戒巡視、住民の避難誘導等の水防活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p> <p>その他にも、冠水した道路の交通規制や倒木等の危険除去作業等の活動を行った。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	いわたししょうぼうだん 磐田市消防団
所 在 地	静岡県磐田市
代 表 者 (団体での職名)	団長 <small>もんな よしのり</small> 門奈 良則
功 績 の 概 要	<p>磐田市消防団は、令和4年台風第15号に際し、令和4年9月23日から延べ653名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。</p> <p>1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p> <p>その他にも、土砂撤去等の災害復旧支援活動に取り組んだ。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	しまだししょうぼうだん 島田市消防団
所 在 地	静岡県島田市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ふじわら たつろう 藤原 達郎
功 績 の 概 要	<p>島田市消防団は、令和4年台風第15号に際し、令和4年9月23日から延べ772名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動等の水防活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。</p> <p>その他にも、土砂災害被害を受けた建物や道路について、地域住民と協力して土砂撤去作業等に取り組んだ。</p>